

## TAKE FREE

街と人をつなぐ  
フリーマガジン

**特集** 今年の夏も暑いから、ちょっとだけ  
ヒンヤリしてみませんか

# 津軽の不思議なお話し

## ほんとにあった

### The Mystery & Ghost Stories Of TSUGARU



藩政時代の文化や歴史を残す風情ある街並み。江戸時代以降様々な時代の出来事を経て現存する築城400年を越える弘前城。そしてこの街を抱くような佇まいの岩木山。お寺が規則的に並ぶ道。奇怪なのに美しい絵図のねぶたまつり etc…。私たちが暮らす津軽はなんだかミステリー。今号は弘前を中心に津軽の街で実際にあった不思議な出来事や、背筋がゾクとするものから少しくスツとしてしまう怪談を紹介するよ!

Special Thanks

弘前乃怪 お話し: 鉄爺



## Prologue プロローグ “弘前” という名前にはどんな意味があるの?



弘前は、以前「高岡」「鷹岡」と呼ばれていたが、1628年(寛永5年)8月20日から「弘前」に改称されたとあり、命名したのは津軽信枚の帰依する天海大僧正です。もとより弘前城(鷹岡城)は城及び城下の設計において鬼門崩しと思われる箇所も見られることから、何らかの意味合いを含ませたものではないかと考えます。さらに、前年には天守・本丸御殿・諸櫓の落雷炎上が起きています。よって私は『弘(広い・広がり)』と『前(邪を切る)』で『邪を切り払い無限に街が広がる(発展する)』という意味を持たせたものという説が合っているのかなと思っています。(※諸説あります)

## Strange experience 奇妙な体験

体験談.1 (H市T町:A君)

### 「泣き石」

たまに不可思議な者を見るというA君に、「おまえ家のあたり城跡だから、なんか昔の物とか不思議な物とかない?」と聞いたところ、山手の畑の中に大きな岩があり「泣き石」と呼んで大事にしているのだそうだ。今となっては謂れも何も解らないのだが、その石、昔は夜な夜な泣いたのだそうだ。現在でもこの岩を退かすことは禁じられているのだという。

体験談.2 (O郡F町:女性/30代当時)

### 「裸足の女性」

某道。夕方コンビニに行ったその帰り、まだ明るいものの早めに車のライトを点灯して住宅街を走行中、ライトの中に裸足の女性の足とスカートが照らし出された。車の速度を落とすとはっきりと確認できたのだが、上半身が無い。ライトの照射範囲の上側には薄暗くなった街並みしか見えない。女性の下半身が歩いてきた方向にあるのは住宅の他には墓地。墓地と何処かを行き来しているのだろうか?しかし何故に裸足なのか?わざわざ靴を脱ぐような出来事があったのだろうか?

体験談.3 (O郡I町/鉄爺に寄せられた体験)

### 「車の屋根を叩く者」

知人の会社の資材置き場。そのすぐ近くの山道の途中に、自らの命を絶つ方が多いと言われている場所がある。資材置き場で作業をして日が暮れてくると、何かが車の屋根を叩くそうだ。体験者は、その姿までは見えないのだが、波長の合う人ならその姿を確認することが出来るかもしれない…

## Ghost Stories 怪談

### 「オレンジ色のセーター」 ほん怖指数 ★★★★★

弘前市在住の飲食店勤務の女性から聞いた話。  
N子さんがまだ小学生だった頃、母親がフリーマーケットでオレンジ色のセーターを買ってきたのだそうだ。  
普段古着などに大して興味を持っていない母が突然買って来たもんだから、N子さんは訝しく思った。「なんとなく欲しくなっちゃったんだよ。なんでだべ?」。母本人も納得していない様子。  
セーターはハンガーに掛けられ居間兼寝室の壁際に吊るされたままになったのだが、その日以降、N子さんの弟の行動に異常が見られるようになった。弟がオレンジ色のセーターに話しかけるようになったのだ。  
御両親は、弟の異常は精神か何かの異常だと心配し、医者だなんだと駆けずり回った。  
まだ幼かったN子さんは、両親が弟の事で手いっぱい、他の事に手が回らないのは仕方ない事だと理解はしていたが、どうしても苛立ってしまう。  
ある日学校から帰宅すると弟がまたオレンジ色のセーターと会話をしていた。「一緒にあそぼう!はい!」と、弟はゲーム機を床に置いた。すると、床に置かれたゲーム機の電源が勝手に入った。誰の手も借りずに…。目の前の光景に理解できない状況の中、N子さんの苛立ちが溢れ出てしまった。  
「あんたがそんなだからお父さんもお母さんも毎日大変なんだべな!!」ゲーム機を払いのけ弟を小突いてしまった。  
その日の夜、N子さんは夜中にふと目を覚ました。他の兄弟たちの寝息が聞こえる。部屋の片隅にはオレンジ色のセーター。  
が、何かがおかしい。セーターに厚みがある。まるで人が着ているように立体的なのである。  
びくりして凝視していると、セーターから頭、手、下半身が生えて女の姿に変わり、ゆっくりとN子に近づいてくる。  
セーターのオレンジの地色に模様浮かび上がる。まだらな赤い模様。それはどうみても血飛沫であった。  
セーターの女の手には包丁が握られている。  
「殺される!」。N子さんがそう思ったその時、ちょうど姉が突然飛び起き、脱兎のごとくトイレに走って行った。  
そのタイミングと同時に、女は元のセーターに戻った。N子さんは恐怖と緊張の糸が切れ、その場で意識を失ったという。

さて、そのセーターだが、N子さんの必死の訴えで処分することになるのだが、問題は、その処分方法である。  
下手な捨て方をしたままセーターが戻ってきたら怖い…。そこで、一刻も早く処分するためにN子さんの母親は、フリーマーケットに出品したという。

もし貴方が、古着のオレンジ色のセーターに出会ったら…、ご注意ください。



### 「ある通夜の夜に」 ほん怖指数 ★★

弘前市O町に住むAさんは、近所で不幸があったため、早めに仕事を切り上げお通夜に列席した。  
故人は近所でも有名な偏屈爺であった。Aさんは故人とさほど懇意にしていたわけではなかったが、近所付き合いもあるから行かないわけにはいかない。通夜は滞りなく進み、弔問客はご焼香を済ませた順に引けていった。やがて、親戚方と近所の者だけになると、故人の思い出話が始まったが、宴席の酒の勢いも加わり話題は少しずつ羽目を外し始めた。なにせ偏屈爺と噂される故人であった。多少の愚口も含んでいる様々なエピソードが披露され笑いがおこる。

「まんずまんず、たんだね偏屈のじよっぱりごぎであつたね!」  
ひときわ皆の笑いが集まった その時、…バン!という音とともに祭壇横の障子が開いた。  
そこには、話題の“本人”である故人が立っていた。あけにとられた弔問客は、開いた障子の間に立つ人物と祭壇の御遺影を見比べるばかり。故人はギョリと弔問客達を睨み、またバン!と障子を閉めたのだ。  
「通夜でだば なんだかんだしゃべるもんでねえなあと思ったじゃ。」とAさんは語っていたが、  
「なんだかんだしゃべらねんた年寄りさなねばいね。」と、  
……Aさんよりも棺桶に近い歳の私は思ったものである。

もっと津軽の怪談で涼みたい方はコチラ!

## 関連図書のご案内 Book

弘前市を中心に活動する怪談家たちが蒐集した青森の本当にあった怖い話



### 『青森怪談 弘前乃怪』

著・編集: 高田 公太  
共著: 鉄爺、鶴乃大助、高野真他  
出版: 竹書房 (2021/03)

「咳が止まらない…」  
津軽の霊場・賽の河原で2人の母を襲った異変とは?  
弘前市を中心に活動する怪談家たちが蒐集した、地元青森の本当にあった怖い話 全38話を収録する。

弘前図書館、岩木図書館でも貸出しています

## Monologue モノローグ

津軽は今生と彼岸の垣根が薄い土地だという。多少の不可思議な怪異など『魂つこ来た』で済ませてしまう。その体験談が人づてに伝わる過程で、興味本位で大きくなることもなく、普段の生活でも起こりうる事象として日常に存在しているように思う。

### Profile 弘前乃怪

鉄爺(代表)、高田公太(作家)、鶴乃大助(怪談作家)を主たる語り手とする、トークライブや体験談蒐集を中心に活動する弘前市の怪談集団。最近では若い語り手の発掘・育成にも取り組んでいる。語り手以外に各分野のプロ・セミプロのメンバー達が脇を固め映像・音響・照明も自らおこなっている。2024年も東北を中心に県内外でライブを展開中!

弘前乃怪 鉄爺 談



**ヒンヤリした後は…**  
夜空の下でカンパ〜い!!

**MENU**

**生ラムジンギスカン** 野菜付 (1人前)  
+ バイクン料理 食べ放題!  
+ ドリンク 飲み放題! 生ビール、サワー、ハイボール他各種

**アツアツ**  
絶賛営業中  
9/7迄

お1人様 90分

大人 ¥4,500  
小学生 ¥2,000  
未就学児は無料です

バイクン料理 & 飲み放題 30分延長 追加料金 大人 ¥1,000 /人 小学生 ¥500 /人  
※生ラムジンギスカンは含みません。

生ラムジンギスカン 食べ放題 追加料金 制限時間 90分 大人 ¥1,500 /人 小学生 ¥500 /人  
※食べ放題はグループ全員でご注文いただけます。 ※延長はございません。

おかわり(一人前) お肉 ¥1,000 お野菜 ¥500

スライドルーフで雨でも安心!!  
お席のご予約をお忘れなく♪  
「どてまちピアバイクン」は、専用チケットのみでの精算となります。

会場 土手町コミュニティパーク ごちそうプラザ屋上  
営業時間 【月~木】17:00~21:30 【金・土・祝前日】17:00~22:00  
【定休日】日曜日・8月13日  
チケット販売所 9:00~17:00 FMアップルウェーブ  
17:00~閉店迄 ピアバイクン会場

